

令和5年度「日田市農業振興ビジョン」推進委員会議事録

R5.11.21(火) 15:30～

4階庁議室

1. 開会（事務局）

2. 課長あいさつ（農業振興課長）

3. 推進委員会委員紹介

名簿順に紹介

4. 委員長あいさつ

5. 議題

(1) 主要事業の各施策への反映状況について

（事務局）資料3にて説明

●主要事業の各施策への反映状況

●各重点施策の進捗状況

意見集約

【果樹・野菜・花卉・米等の安定生産と生産拡大について（資料3の3ページ）】

- 1) 日田の中で主要生産物と言いますと日田梨、ブドウ、白菜、スイカが主力四品目で力注いでいるところでございます。日田梨につきましては、今後大きく品種の改良をするべきなのかなと思っています。

今までは、新高の方を主にほぼ後半にシフトしていましたが、前半の青い梨から、新高の前にあきづきなど、まだ全般的に面積は拡大していませんが、高く農家さんの収益になる品目へ現在シフトしているところでございます。また、水害ですが先ほど、最後の方にありましたほ場の関係で高尾原と入江等、団地化も進んでおりまして、来年、再来年あたりから出荷が始まるというところで見込んでおります。まだ数字的なものは今現在持ってきておりませんが、単価的には大きく販売額は大きくなっております。上期の決算では、なぜかというところといった品目が、以前それぞれの時期に出ていた品目が前倒しの傾向にあるというのが一つの要因ではありますが、生産者も戸数は減りましたけれど、十年前から見ると九十弱くらいですか？生産農家が、そういった所を若手後継者が補って、梨、スイカ、特にスイカは若手の方の活躍で知名度も上がっておりますし、新しい商品化にも取り組んで現状維持ではなく、右肩上がりに今後単価的には上がっていくと思います。

【足腰の強い畜産業の振興について（資料3の5ページ）】

- 2) 畜産ということで、酪農が主になるんですが、飼料高騰特別支援事業ということで、前年度はこういった飼料購入費の一部をいただいたというところです。酪農にとっては非常に助かっております。

今年度におきましても、高騰特別支援事業ということで、物価の高騰分をまた補助いただけるということになっておりますので助かります。それ以上に、なかなか酪農の方はまだ飼料の高騰や、非常に全体的にコストが上がっているところもあるのですが、特に肉用元牛の下落がかなり激しいというところで、牛の副産物の収入もかなり落ちてきているということで、飼料高騰もあります。なかなか収入が得られていないという状況です。今、こういった高騰対策の補助を受けながら、なんとか粘っているという状況になっています。子牛が相場になりますので、いつ上がってくるか分かりませんが、畜産としての現状は、自給飼料やこういったコントラクターとかどういう風にして輸入飼料を減らしていくか、また飼料コストが一番コストの課題ですので、そこを下げるためにどうしていくべきかというところが、現状での課題になっております。後の子牛とかの環境は、自分の力ではどうすることもできないというところがありますので、現状、説明は難しいですがそんな感じになっています。

【生産部門との密接な連携によるマーケットインに向けた取組の推進について（資料3の6~7ページ）】

- 3) 市が提案している創意工夫で販路拡大を目指す事であったり、本当に隙が無い内容で順調に進んでいるのかなと思います。この項目だけでなく、全体的に話を聞いていて、市が提案している内容というのは、隙が無くて素晴らしい内容が多いと思いますが、その後、僕たち生産者がどういう風に関わっていくかというところで、成果が出ているところと出ていないところが、出てきているのかなという感じはしました。その創意工夫で、販路拡大を目指すというのは、すごく生産者がずっとこういう事がしたかったという人が多分多かったと思います。皆で協力したり、PRしたりだとか、日田に関しては梨部会とかすごく大きな組織なので、自分で独立して何でもできますが、僕はスイカを作っているというのもあり、日田のブドウ農家さんとか、なかなか光があたることは無かったと思いますが、その中でも品質の良いものはある。スイカも梨もブドウも、今それぞれの品目ではなく、それぞれの品目を通して、日田という地域にフォーカスした取組みが出来ているというところで、すごく農家の売り上げにも地域の波及効果的にも、すごくいい影響が出てきているのではないかと思います。僕も実際積極的に関わらせていただいているのですが、今までは農作物を作って販売するという販売する部分は、結構農協さんにお任せしていたんですが、そういうところを農業振興課の手助けがあって、販売面に積極的に関わるようになって、僕たちのフルーツを使って色んな事ができるという気持ちにはなっています。例えば、この間、日田市で事業共想セミナーというのがありまして、参加していた企業が、セブンアンドアイフォールディングス、パナソニック、NECなどそういった大きな企業の方々が、日田という地域に対してどう言う風にアプローチしていく可能性があるのかと言うようなことを言っていたのですが、そんな中でフルーツを使って地域体験型の観光とかにも全然、僕たちがやっている取組みは繋がっていくのかなと、だからこれからは本当、今は農業という感じなのですが、観光とかと色々接点を持つことによって、また多分日田の観光業とか、僕たちの力がいい意味で影響を与えられたらいいなと思っております。

【担い手の明確化と農地の集約について（資料3の8ページ）】

- 4) 集落営農ということでございますが、上諸留集落に営農組合があるのですが、今一番困っているのは一年、一年数名ずつリタイアしていております。70代が主役でいつまでこれが続けられるだろうかということで、一番困っている事がそこなのです。私自身も去年までは、WC Sで田んぼに堆肥を散布していたのですが、バイパスを引っ張り、堆肥を散布する

のは非常に怖いから、5年度から辞めさせてくださいということで営農組合にお願いしましたら、致し方ないだろうということで誰か代わりを探すがなかなかいないということで、今年WC Sは堆肥を散布しないということで行いまいした。どこの営農組合も頭を痛めているところではないかなと思っています。

【新規就農者や農業後継者の確保・育成について（資料3の9ページ）】

- 5) ご覧の通りですが、ファーマーズスクール等は最近ちょっと数が少なくなっています。コロナの問題もあり、なかなか補充活動ができにくかったというのもあるのですが、日田に限らず玖珠郡においても同様の状態になっております。県としましては、市のみなさんと一緒に就農フェア等でファーマーズスクール生を集めるという活動も引き続き行っております。具体的に述べることは不是ですが、そういった取組みを進めていながら、ファーマーズスクールの受講生を増やしていきたいという風に考えています。

日田市のほうについては、ファーマーズスクールの他に親元就農といったような形で就農される新規就農の方が増えております。そういったことで引き続き新規就農者の確保、育成ということについて検討しまして、市と一緒にやっていきたいと考えております。

【生産基盤として有効な農地確保や農業用水施設の整備・更新について（資料3の10ページ）】

- 6) 基盤の方の件、私も専門ではないですが、先ほどご紹介のあったとおり日田梨のリース農園ですね、令和2年度に合計3.9haですか、3ヶ所完成しておりまして、今年令和5年度産から植付け3年目なのですが、初収穫が始まって収穫が始まったことによって、元々この団地の入植者10名の方が入植されていますが、特別チームというわけではないのですが、重点的に管理をしてくれている成果が出て、早く結実したのだらうと思います。また、今年初結実したことによって、生産者の方々も俄然やる気が出てきております。今度第4番目の団地として、小野柳野地区の整備が今年から設計が入ってきております。こういった取組みをして、梨も残念なことではあるのですが、高速道路から見える杷木山ですね、梨の急傾斜地から平坦地の方に梨園も段々と産地が推移をしております。それも時代の方角だらうと考えております。今後、生産者数が減っていく中で、今親元就農も多いという話もありましたが、少ない生産者数で生産量や面積を維持していくためには、どうしても一人の面積を大きくするしかないの、やはり省力化管理のし易い営農を作っていくというのが避けられない方向にあると思います。なかなか事業費的にもかかるのですが、こういったリース農園の事業とか基盤整備の取組みと、以前のような水田のための基盤整備ではなしにこういった園芸作物への基盤整備も、今後やはり進めていく必要があるかなと感じております。なかなかスイカの方とかも、作りたくても農地の確保が困難という状況も生まれてきている、そういった対策も今後農地に関しては必要かなと感じがしております。今後ともよろしくお願いしたいところでございます。

- 7) 基盤整備に関してですが、今年については、大山町農協がJA主体の団地づくりの基盤整備に手を挙げていただいて、整備に話が動いております。農協がそういった形でなかなかハードルが高いのですが、大山町農協に積極的に取組んでいただいて、そういった形で先進的な取組みもしていただいております。引き続きこういった取組みが増えて、新規就農者が事前にその整備された土地にそのまま入っていけるような取組みが、引き続き広がるといいのかなと思います。

【安心・安全な環境保全型農業の推進について（資料３の１２ページ）】

- ８） 実は去る１３日に、大分で通称キャラバンと言いますが農林省、あるいは九州農政局、大分県それから土地連と市長、今年は豊後高田の佐々木市長と国東の松井市長等が、それぞれの立場で意見を農林省に述べました。農林省の方からは、来年度の農林省の農業の方針と、予算の要求は同程度としていますと言う説明等がございました。その資料の中にも、散布とかに関してはご存じのように、ウクライナにロシアが侵攻して以来、化成肥料の原料となるものが中国も含めてまだ入ってきていないということで、今度は農林省は目標として、化学肥料から堆肥や下水汚泥資源等を代替資源等への転換等を推進しますと言うような文言が入っているのです。幸い日田市においては、先ほど説明があったように来年は２,４００ｔですか、大散布ということで良いことだなという風に思っております。私も実際、酪農をされていて、堆肥を散布しまして、梶原君のところにもスイカの後に思い切って梶原君が土が見えないぐらい散布してくれということで、あと白菜を播種しましたが、それも堆肥と安く鶏糞が手に入ったから、それを主体に化成肥料は極力使わないということで、私も時々、白菜を見に行きましたが、順調に育っています。スイカの後、あの辺りも多くの堆肥を散布してということでやっているのですが、国もほぼ耕畜連携を行っていますから、日田は資源利活用事業をずっと継続すると同時に、いかにしたら農家が使う方が増えるかということも考える必要があるのではないかということです。

今年初めて梨農家からも、勾配のないフラットな梨園の方が、「堆肥をください」ということで、掬う物が無いからトラクターとマニユアスプレッダが一緒になった物があるから、それで散布したいということで、初めて今年梨農家が２０～２２台分散布したのが良かったと言って好評いただいております。また、農家の稲作の方も、ウチのは７３度、４度に上がっていますから高発酵で匂いもしないので、市内の周りアパートのところに２反だから４ｔ、それを４～５ヶ所にポトポトと落とし、スコップで撒くのには本当に楽でしたと喜んで、また来年もお願いしますというような声をいただいております。市としてもせっかく日田にこれだけの堆肥があるのですから、使わない手はないと思います。今後市場に向けても、日田で生産された米、野菜、果樹については限りなく有機に近く生産されたものですから安心、安全ですよということをＰＲすれば、その分価格にも付加価値が付いて農家に回ってきますよね。ですからぜひ、そういう方向も考えていただきたいなと思っております。

【その他、全体を通して】

- ９） 私も先日、ファーマーズスクールを卒業された大山でエノキをされてる方、元気一杯で頑張っていました。やはり地域の先輩方も勉強しながら、そこまでなったということで話を聞いておりましたので、これからもこういった取組みは増やしていただきたいと思っております。今日意見の中に出ませんでしたが、今物価高騰とか、すべて資材が上がっております。それに関しまして、菌床しいたけのハウスが色々あるのですが、前年対比で経費１３０％、去年に比べて３０％上がっている。すべての資材が上がっておりますので、何かそういうところで、県の方々に何か地域の生産者の方々に伝えてもらいたいと思っておりますが…。
- １０） 難しいですね。難しい質問で答えに困惑しているのですが、今言われているのが、あらゆるものの物価が上がっている中で、上がっていないのが農産物と新聞等で報じられているところがございます。実際、なかなか農産物の価格、経費はおっしゃる通り大変な高騰なの

ですが、農産物の販売価格についてはあまり反映されてないと、結局農家の所得が減っているだけという背景にあらうかと思います。これも物価高騰、賃金が上がろうとしています。農家の所得確保のために、いかに農産物の価格を適正なものにもっていくかの仕組み作りが必要かなと感じています。今までの市場だけのコントロールではなしに、もう少し価格をコントロールする制度が必要かなと感じてます。ちょっと答えになりませんが…。

- 1 1) うちの班は、6次化とか引き続き担当しているのですが、最近相談等も増えてきていて、6次産業化の産業創造機構の6次化のコーディネーターみたいな人とかを日田のほうに来ていただいて、現地を指導していただくというような依頼が増えています。一つはそういった加工等をして単価をあげていくというところ、良い例は日田の山椒とか、つえエーピーさんあたりが山椒のミルの付いたものですね、東京とかの坐来とかにきているのですが、すごく人気商品でホームページを見ていただいたら分かると思いますが、一年の内4分の3は一位の商品となっています。そういった加工とかですね、また自分たちで出来ない場合は、他の加工企業さんとの商工連携だったりといったような形で、付加価値を付けて販売するということも、今後販売単価の向上というのはひとつのやり方としてはあるのかなと思っています。引き続きご協力させていただけるところがございましたらご協力させていただければと思います。よろしくお願いいたします。
- 1 2) 関連ですが、事例といたしましても広域合併のメリットを出そうとですね、価格面のコスト軽減策は打ってきたのですが、なんせここ近年、原材料が日本にない物はどうしても日本全国的な問題になってくるので、JAどこどこではなく、そういった対策は軽減策での対応を考えております。先ほど、堆肥の話もありましたが、堆肥とかで日田式循環農業、堆肥をいかにみなさんに効率よくみなさんに配布するには、機械はそういった事業でいただけるのですが、まずその堆肥をちゃんとした商品にする施設は、行政とか県のお力がないとそういった流れができないのかなと、これは以前からずっと前6年、7年前もこういった話をした覚えがあるのですが、何かの形であればそれを商品化する、直接農家さんに還元する方法とかですね、そういうのを今後考えていく中で、やっぱりこういった機会がないと提案ができないと考えています。今、西部エリアということでウチも玖珠、九重、飯田一緒になりまして、ここで話す内容ではないかもしれませんが、玖珠に畜産のキャトルを起工して準備をしている途中です。そしてそこにも堆肥が発生する。そういうのを有効利用するためには行政は別になるのですが、そういった内容を考えていきたいと思います。それと肥料メーカーと話しをしている無機肥料ですね、無機肥料の土改剤に有機肥料を混ぜて元肥料を軽減する。そういった考え方も逆の考え方で、元肥が高くつくなら元肥を軽減するために大学の素晴らしい先生方と開発していくのですが、それによって元肥を追肥みたいに軽減できればいいかなと、栽培にも工夫を凝らしていく協議を今後とも続けていきたいと考えております。
- 1 3) 実際の生産現場の方から、資材高騰と牛糞堆肥についてなのですが、今年白菜についてはあまり面積を作っていないのですが、そのうちのほとんどを100%有機で作りました。良質の堆肥をたくさん散布してくれるというのがスタートなのですが、具体的にBLOF理論というのがあり、巷によくあるようなオーガニックとかよく分からないものではなく、ある程度、科学的な農業を栽培する上での理論なのですが、それに基づいて、100%有機で作り、

すごく順調に育っています。昨年に比べて白菜における肥料のコスト 8 分の 1 で、去年までは 7~80 万ほど肥料だけで白菜に使っていたのですが、それが本当に 10 万にという感じでコスト的に相当助かり、僕も化学肥料を否定する気は全くないのですが、全然有機でもできるなど実際今年やってみての実感です。実際自分がチャレンジして、途中少し心配になったりもしました。豊後高田で白ネギのすごく大きな産地なのですが、大きい法人とかしっかり儲けを出しているところは、少なくとも元肥 100% 有機であることが多いというか、かなりの割合で、元肥は有機に変わってきているなというのが僕の青年活動を通しての実感であります。だから、良質の堆肥が散布できる環境があるなら、でも実際みんなどうやって使っているのかわからないと思います。僕も最初は堆肥は土づくりのためという感じだったのですが、実際その後すぐの栽培にも全然、堆肥の栄養素というのは色んな有機質肥料をかみ合わせれば有効に使えるというのが分かったので、こういう講習会とかあってもいいなと思いますし、僕も自分が一年という形だから、あまり人に勧めるのは難しいところではあるのですが、今後何年も続けていってこれが安定した結果が残せるようであれば、堆肥を直接栽培に利用した堆肥の利用の提案をしていければいいのかなと思いました。実際他の産地はやっているところもあるのでと思いました。

- 14) 私が個人的に思うのは農家の所得を上げるのは、産直事業です。大山町の木の花ガルテン、大分県農協の山田の出荷場ですね。これは価格転嫁が全部できます。上げていって売れます。福岡方面、大分方面ですね。農家の所得上げるのに産直事業をもう少し増やしていき、庭先から採れた野菜を高く売するような感じで。市場出荷の場合は最初のほう、今年の 3 月、4 月は一番競りの分は、物価が上がっていますのでそこで一回言って、仲買人とか買う人に値段を上げてくださいと言っていました。最近は言いませんよという話をしていますそういう感じで、とにかく市場出荷の分は良いものは高いので、農産物は物価の優等生と言われることがよくあるのじゃないですか。それを変えていかないといけない。農家の所得を上げるためにですね。私自身個人的にそう思っております。よろしくお願ひしたいと思います。
- 15) この私が持参した資料は 13 日に農林省からいただいた資料になります。帰りにじっくり読んでびっくりしたのが、農林省がはっきり認めているのが、農業従事者が今後 20 年後に 4 分の 1 程度に急減すると現在 120 万人が 30 万人になりますよと、これを見て私はショックを受けたのですが、やはり今後はそういう推測とか出している以上、日田市農業振興ビジョンの中でも、それを前提に少なくとも日田市だけは 4 分の 1 に減ってしまうことのないように、農家を守る、農地を守る、農業者を守るということをこの振興ビジョンの中で、皆さんで年に 1 回でなくても時と場合によっては、年に 2 回でも 3 回でも議論する場を持たなければ、後で取り返しのつかないことになるんじゃないかというのは、私が中間見直しをやりますよと言われた時にお願ひしたのは、国際情勢がどんどん変わる中で、5 年後見直しでは遅いです。国際情勢がころころ変わる中で 5 年後ではなく、毎年規模を縮小してでも、毎年見直しをやりましょうと提案したら、その後、農業振興課の方が入れていただいて毎年こういう風にするようになったのですが、時と場合によっては、会長いかがでしょうか、やはり急な場合は 2 回、3 回と開いてもおかしくないと思います。でないと取り返しのつかないことになってくると、ぜひご検討願ひたいと思います。

- 16) 6の重点施策の担い手をサポートする体制の整備の中で、説明がありましたように当初そういった経緯があります。その部分につきましては、今日はこの場では省きます。今現在、大山農協は説明のあったとおり、ちゃんと理想に沿ってやっているなとつくづく感じています。うちとしては西部エリアになりましてピーマンはどちらかというと日田より玖珠の方が先輩であるので、玖珠にピーマンのファーマーズスクール、学校みたいなものがあります。うちの言い分ではないですが、言い訳ではないですが、新たに日田に設置するよりもそういったところを活用して、エリアでピーマンをもう少し充実させていこうかなという考えは個人的にはあります。ただ、ビジョンに沿って反比例になると悪いので、こういうビジョンの最終目的に行き着くようにそういったサポート支援は、再度持ち帰りまして、最終的にはこれでみなさんの意見がOKと言われるような感じにしていきたいと思いますので、もうしばらくそのところはよろしくお願いしたいと思います。決して、今放置しているわけではありません。今うちでは農の匠と言いまして、そういったこれに似たような感じで学校が無いだけで、そういったやり方で出来るところから取り組んでいっているということで、現状の報告ということで今日お伝えしておきます。

6. その他

特になし

7. 閉会（事務局）